

## 《Lesson 6》 助動詞+いる・ある

ここでは「いる・ある」に will や should といった助動詞を足して「～いるだろう」「～あるはず」といった文を作る方法を学んでいきます。ポイントとなるのは、肯定文。肯定文の基本の形は

**be 動詞の前に助動詞を置き、be 動詞が be に変わる**

というものです。考え方は、普通の be 動詞の文と同じとなります。

【助動詞+いる・ある 肯定文：基本の形】

**There + 助動詞 + be + ～.**

<例> There **will be** 20 computers in the library. (図書館には 20 台のパソコンが入る予定です)

There **should be** enough water in the bottle. (十分な量の水がボトルに入っているはずです)

### 【作り方】

ステップ 1：助動詞の部分を除いた形で there + be 動詞の**肯定文**を作る。

ステップ 2：be 動詞の前に**助動詞**を足し、be 動詞を **be** に変える。

<例 1> 「図書館には 20 台のパソコンが入る予定です」という文の場合。

ステップ 1：助動詞の部分を除いた形で there + be 動詞の**肯定文**を作る。

→ 「図書館に 20 台のパソコンが**あります**」

There are 20 computers in the library.

ステップ 2：be 動詞の前に**助動詞**を足し、be 動詞を **be** に変える。

There **will be** 20 computers in the library.

<例 2> 「十分な量の水がボトルに入っているはずです」という文の場合。

ステップ 1：助動詞の部分を除いた形で there + be 動詞の**肯定文**を作る。

→ 「十分な量の水がボトルに**入っています**」

There is enough water in the bottle.

ステップ 2：be 動詞の前に**助動詞**を足し、be 動詞を **be** に変える。

There **should be** enough water in the bottle.

そして、否定文や疑問文は「助動詞の文」として作っていきます。つまり「否定文を作る際は助動詞の部分で否定する」「疑問文を作る際は、助動詞を文頭に持ってくる」形になります。

【否定文】 **There + 助動詞 + not + be + ～.**

<例> There **will not (won't)** be 20 computers in the library.

(図書館に20台のパソコンは入らない予定です)

【疑問文】 **助動詞 + there + be + ～?**

<例> **Will** there be 20 computers in the library?

(図書館に20台のパソコンが入る予定ですか)

【疑問詞+疑問文】 **疑問詞+助動詞+ there + be + ～?**

<例> **Why will** there be 20 computers in the library?

(なぜ図書館に20台のパソコンが入る予定なのですか)